

会 議 名	令和2年度 第1回板橋区健康づくり推進協議会
開 催 日 時	令和3年2月12日(金) 午後2時00分～午後3時30分
開 催 方 法	WEB会議
出 席 者	31人 〔委員21名〕 許 委員 安藤委員 井谷委員 藤垣委員 宇和川委員 齋藤委員 金子委員 加藤委員 石井委員 三原委員 柳澤委員 横田委員 小林委員 渡邊委員 小井土委員 片寄委員 北村委員 藤井委員 浜名委員 小岩委員 茂田委員 〔事務局10名〕 五十嵐健康生きがい部長 鈴木保健所長 長谷川健康推進課長 國枝生活衛生課長(予防接種担当課長) (以下、健康推進課) 健康づくり係長 成人健診係長 母子保健係長 受動喫煙対策推進係長 健康づくり係副係長 主任
会 議 の 公 開	公開 (通常は傍聴が可能だが、今回は、感染症拡大防止の観点からやむを得ず傍聴は不相当と判断した。)
次 第	1 開会 2 報告 区の新型コロナウイルス感染症の流行状況(最新情報)について 3 検討 (1)新しい生活様式をふまえた区の事業のありかたについて (2)新型コロナウイルス感染症に関する差別偏見を防止するための取り組みについて 4 連絡事項 5 資料の補足説明等 6 閉会
配 付 資 料	板橋区健康づくり推進協議会(第12期)名簿 東京都板橋区健康づくり推進協議会条例及び同要綱 資料1 区の新型コロナウイルス感染症の流行状況と区の取り組み 資料2 コロナ流行下の区の保健事業について 資料3 受動喫煙防止対策について 資料4 熱中症対策について 資料5 後期高齢者医療健診質問票の追加と様式変更について 資料6 意見・質問シートまとめ その他

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントチラシ</li> <li>・広報いたばし魅力特集号</li> <li>・中学生向け健康支援チラシ「新型コロナウイルス感染症の予防の新生活習慣」</li> </ul>
審 議 状 況	別紙会議録（要約）のとおり
所 管 課	健康生きがい部 健康推進課 健康づくり係 電話 3579-2302

令和2年度 第1回板橋区健康づくり推進協議会会議録（要約）

【会長互選】会長は許委員、職務代理は齋藤委員に決定

【議事進行】会長がWEB参加のため、会長の指名により健康生きがい部長が進行  
事前に資料1～資料5を配布し、質問等を資料6で回答したうえで審議

健康生きがい部長	<p>それでは健康づくり推進協議会の議事に入ります。次第の2「区の新型コロナウイルス感染症の流行状況（最新状況）について」を事務局から報告してください。</p>
保健所長	<p>（区の流行状況の最新状況について報告）</p>
健康生きがい部長	<p>続きまして、次第3、検討（1）「新しい生活様式を踏まえた区の事業のありかたについて」説明願います。</p>
健康推進課長	<p>資料6（4ページ）をご覧ください。新型コロナウイルス感染症の収束の兆しがいまだ見えない中、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて施策に取り組む必要があります。どのようにして区民に健康情報を届けるのか、健診や式典、まつりなど、個人や地域の健康や健康意識の向上のために、どのような工夫が必要なのかなど、さまざまな意見を委員のみなさまから事前にいただいています。改めてお感じになっている点など、この場で意見交換ができればと思います。</p>
許会長	<p>高齢者施設においては、高齢者とコロナという問題は実に切実に感じています。亡くなる方のほとんどは高齢者です。高齢者はいったんコロナにかかると非常に深刻になるということがあり、病院に行きたくない、患者のいるところに行きたくない、受診控えが起こっています。その中で、普段服用している薬が途切れたり、受けるべき検査が受けられなかったということも起きています。問題は高齢者の認知症、フレイルです。認知症のコロナ患者を収容し、少ない看護師でそれらの方を個室で管理していますが、夜中に自宅と混乱し、個室の外に出てしまうということがありました。また、自宅待機の認知症患者やフレイル患者においては、日々の閉じこもりによる運動能力の低下がみられます。高齢者のケアが非常に大事だと思い、認知症のコロナ患者に対するケアや感染対策についての冊子を作りました。この冊子を参考に、新型コロナウイルス感染対策をすすめていただくようお願いしています。ぜひ委員のご経験を、この場でお話しいただきたい。</p>

安藤委員	<p>コロナ重点病院ということで、他の病院と協力しながら、お互いに支え合いながら病床を確実に広げています。この病気が病院間連携を造っているような気がするくらいです。問題点としては、患者自身が既に持っている病気、もしくは発見されるべき病気が発見されなくて、潜在的に重症化したところで、コロナに感染するという事です。コロナ自体ではなく、それ以外の疾患の重症化、もしくは偶発的に起こる病状に関する対応が新型コロナの病床の中でも大きな問題になっています。精神科疾患、内分泌疾患などのさまざまな疾患が、通常の社会における状況よりも悪化した状態にコロナを伴ってやってくる状況があり、想定していたよりもこの病気はやっかいです。感染力の強さと、受診控えなどさまざまな複合要因で、フレイルの問題などが全部絡んできて、一生懸命考えなくてはならないなど本当に痛感する日々です。</p>
渡邊委員	<p>コロナ対策も大事だが、家庭に引きこもってしまっただけではフレイルが心配です。老人クラブでは、緊急事態宣言中も社会奉仕活動ということで週1回の道路の清掃活動を続けていました。新舞踊、輪投げの練習などは変則的ですが続けています。感染拡大が落ち着いていた秋には、対策を講じたうえで、グランドゴルフ大会や展覧会、芸能大会を実施しました。想定よりも多い人数の参加がありましたが、無事に終わり、その後も体調不良者が出ることはありませんでした。今後も、会合などは少人数または書面開催など情勢に合わせて工夫していく予定です。</p>
藤井委員	<p>当会では、身体的、知的で重度の障害を持つ子の父母で活動をひろめています。今年度初めの第1回目の緊急事態宣言が発令したときは、通所施設の方も2ヶ月間近く自粛ということで、親も子もステイホームを頑張っていました。当会では、集うということがどうしても精神的に必要で、大切にしている部分でもあります。何とか実施できないかということで、感染対策を講じた上でレクリエーション事業を実施しました。その時の会員の笑顔は本当に忘れられません。集ってみんなと同じ時間を共有することの大切さを改めて感じました。</p> <p>子どもたちは基礎疾患を抱えているので感染はとても怖いですが、正しく対策を行い、また少人数でも集うことで精神的に頑張っただけで、コロナ禍を乗り越えていこうという思いでいます。WEBというもの、会員の高齢化により対応が難しい部分もあるため、会場に直接参加できる形もあると良いと思います。最後に医療従事者の皆様方に、深く心から感謝申し上げます。</p>
三原委員	<p>今、幼稚園で非常に苦労しているのが、保護者の方の認識の差やずれに</p>

	<p>ついてです。持病があり約1年間お休みしている子の保護者もいれば、どうして行事をやらないのか、普通にやって欲しいなど、正反対なご意見をいただくこともあります。本日の議題に、差別や偏見についての検討がありますが、こういった認識の差も要因になり得ると思っています。近年子育て世代の方の中には、自身の親や友達から子育ての協力が得られずに、孤独の中で子育てしている方がかなりいます。孤独の孤に育てると書いて、「孤育て」という造語ができるほどです。孤独の中での育児は、育児ストレスがたまったり、産後鬱になってしまったり、場合によっては虐待に繋がってしまうケースもあり、幼稚園でも慎重にケアをしていくべきと考えています。コロナ禍でこういった傾向がより顕著になることを危惧しています。資料を見ると、対面での母親学級などは実施が難しい面があったようですが、動画の作成や、電話対応などさまざまな工夫がされ、幼稚園としても子育て世代の方にとってもありがたいと思います。今後もまだこのような状況が続くと考え、WEBでの育児相談や、コミュニケーションの機会を設けられよう検討いただきたいです。</p>
健康生きがい部長	<p>他に意見はございますか。ないようですので、<b>検討(2)「新型コロナウイルス感染症に関する差別偏見を防止するための取り組みについて」</b>事務局から説明願います。</p>
健康推進課長	<p>新型コロナウイルス感染症にかかった方やその家族が、言われなき差別や偏見に遭われているというような話を見たり聞いたりしています。感染した場合でも安心して話すことができるようにするために、区や区民が実施すべき取り組みについて、委員の皆様からご意見をいただきました。改めてご提案やお考え等あれば、頂戴したく存じます。</p>
柳澤委員	<p>自校では、幸い生徒の陽性者というのは出ていませんが、保護者が陽性で生徒が濃厚接触者で検査を受けるということがちらほらと出てきています。濃厚接触者となると、2週間学校に来られないということがあり、そのときに差別や偏見が起こらないように注意しています。取り組みとしては、放送で朝礼などを行っているので、毎年流行するインフルエンザと同じように誰がかかってもおかしくない病気であるということを強調して特別視しないように話しています。月1回発行する学校便りを活用し、家庭にも呼びかけています。小中学校の道徳の授業では、困っている人に思いやりの気持ちをもつということを指導しており、授業の中でも話をしています。報道などを見ると、どうしても不安をあおるような情報が多いと感じます。区としても、区民に安心を</p>

<p>宇和川委員</p>	<p>与えるような情報発信を広く呼びかけていくべきだと思います。新聞で区の取り組みを知る事がありますが、もっと区民へ情報提供していくべきと考えます。</p> <p>今年度、急にオンライン授業になったので、授業の開始が5月の半ば以降になりました。後期になってからは落ち着いてきました。給付金や支援金があり、授業料の納入も滞りないようです。就職の方はアパレル関係、観光、飛行機などの航空関係は不調だったようで、まだ就職活動をしている学生もいる状況です。栄養科では臨地実習が必要で、教育実習は実施されていましたが、栄養士・管理栄養士の実習では、病院などの実習ができなかったところもあり、教育上も突発的な出来事でした。学生については、家にいるということで、友達の様子がわからない、就職や授業もお互いに助け合うということが困難な状況があり、精神的にストレスがたまっていたり体調を崩したりという学生もいたようです。一つ心配しているのが、板橋区に一人暮らしをしている学生が、住民票を移していない場合に、ワクチン接種はどうなるのかお聞きできればと思います。</p>
<p>予防接種担当課長</p>	<p>各自治体からの接種券は、基本的に住民票のある自治体がそれぞれ住民票の住所に送ることになります。住民票のある自治体に戻るのは困難と考えられるため、基本的にはお住まいの地域の医療機関で接種をしていただく前提で準備を進めています。今後、ホームページ等ではっきりとお示しするので、対象となる方にお伝えいただき、ご安心していただければと思います。</p>
<p>健康生きがい部長</p>	<p>それでは引き続き、差別偏見というテーマではありますが、少し幅広くコメントいただければと思います。学生さんの就活という話もありましたが、区内企業の株式会社タニタの横田委員、就活に限らず区内の健康産業リーディングカンパニーとして、この間の取り組みなどご意見いただければ幸いです。</p>
<p>横田委員</p>	<p>このコロナ禍で自宅にこもっているということで、体重の増加がこの1年間見られているようです。当社では、出社7割削減を目指しており、ほぼ3割弱の出社となっています。感染予防のために自転車、徒歩、自家用車を使用して出社しているような状況ですが、家では体を動かさない、外に出かけられないということから、自社製品も活用し、オフィスや、自宅にいるときに可動域を広げられるように工夫しています。また、タニタ食堂では500キロカロリーで塩分控えめの食事を提供してお</p>

	<p>り、自宅で簡単にできるレシピを一般の方々にも見ていただけるようにWEBサイトで公開しています。</p>
健康生きがい部長	<p>町会連合会の方から小林委員、公募委員の茂田委員からもご意見をいただければと思います。</p>
小林委員	<p>私の年代だと、ステイホームでほとんど家の中で過ごし、テレビが相手、という状況になっている人が多いです。テレビでは恐怖心をあおるような報道が非常に多く、コロナは恐ろしいという意識が強くあります。恐怖心をぬぐえない心理状態が、差別偏見の方向に向かっていくのだと感じます。差別偏見は良くないことなので心のケアをしていかなければいけないことだと思っています。今はワクチンの話が出てきているので、希望の星になっています。PCR検査に携わってくださっている先生方、重症者を減らしてくださっている医療関係の皆さんへ感謝の気持ちしかありません。これからまだまだ安心できませんが、正しく情報を得て正しく恐れていくということを、地域や周りの人と話しています。</p>
茂田委員	<p>日本では昔からいろんな意味での差別偏見が全国でありました。地域や学校、家庭内などさまざまな場面であり、今回、村八分という言葉を出しました。一方で、いつも利用している公共交通機関の電車やバスではとても親切にしてくださる方がいて、一概にこうという方法が見当りません。偏見はいけないことだという、一人一人の意識向上が求められています。情報が流れ過ぎており、モラルというものを考えなければいけないと思います。</p>
健康生きがい部長	<p>ありがとうございました。コロナに関する正しい情報提供という意見も出ました。医療現場も含めて専門機関の方はいかがでしょうか。</p>
井谷委員	<p>コロナについてこの一年、保健所の役割が非常に大きく保健所の業務が核になっていると強く感じています。心配していたのは、保健所のキャパシティのことでしたが、現状、少し落ち着いてきたという説明があったので、なんとか乗り切っていただけたと思っています。日本は他の先進国に比べて、感染がそこまで爆発してないと思いますが、その大きいところは、保健所がきっちり調査をしてクラスターを追っていることが他の国と比べても優れているところだと認識しています。今後の展開としてはワクチンの接種が非常に重要なポイントになってきます。差別についてもテレビは恐怖心をあおるような方向にどうしても行ってしまうので、行政の方から正しい情報を流すことが大事です。あくまでも冷</p>

	<p>静な立場で情報を流せるのは行政、保健所であると思います。</p>
保健所長	<p>本当にこの一年は注目していただきました。一日 100 件も発生届が上がったようなときには、リスクのある方、重症になる可能性の高い方について早目に医療機関につなぐという形で対応させていただきました。板橋区としましては、派遣で看護師さんを入れていただいております、今はもうその日のうちに対応ができるような状況に戻っております。</p>
健康生きがい部長	<p>引き続き、関係機関等の方にご意見いただければと思います。</p>
加藤委員	<p>薬局では、不安を感じている方や一人暮らしの方からの相談があり、正しい情報をお伝えしたことによって不安がなくなったということもありました。情報提供としては、手洗い、うがい、消毒をしっかりといただくということを説明することもありましたし、医療機関になかなか受診できずかぜ薬を買いにきた患者様も何人かいたので、熱が続くような場合には保健所に連絡し検査を受けてもらうよう伝える場合もありました。感染が減ってきているとはいえ、医療機関にかかるのは不安だという方が多いので、必要な場合には受診、不安な事がある場合には保健所に相談していただくということをお伝えしています。</p>
健康生きがい部長	<p>ありがとうございます。それでは、引き続きご意見をお願いいたします。</p>
小井土委員	<p>日頃から、感染予防対策はしていますが、このコロナは誰でも感染する可能性があります。発熱などの症状が出た場合、まずは自分のためにすぐ検査や診察を受け、そうすることが感染を広げない対策にもなっていると思います。受診方法が載っている「広報いたばし」をいつも電話のそばに置いて備えています。コロナウイルス感染症に対する正しい知識がないために、不安や恐怖から、差別や偏見が起こると思うので、風評に惑わされないように、一人一人が感染症を正しく理解をすることが大切です。感染防止や受診方法だけでなく、コロナについての正しい知識などの情報も掲載していただきたいです。インターネットでもよいと思います。</p>
健康生きがい部長	<p>石井委員は、お店やお客様対応などでご意見ありますでしょうか。</p>
石井委員	<p>環境衛生協会では、美容室、理容室、クリーニング店、浴場組合で活動しています。コロナの中でお客様はストレス等いろんな部分を抱えて来店しています。その中で、私たちは、保健所からリモート勉強会ができ</p>

	<p>る資料を提供いただき、各業種できちんとした消毒に取り組んでいます。来店時にはお客様の検温を必ず実施していますが、無症状の方がいるということが一番心配です。お客様がお帰りになった後もしっかり消毒をして、次のお客様を迎えるという部分で、消毒作業に時間がかかりますが、どの業種もしっかりした消毒や感染症対策をして、安心して利用いただけるような環境づくりに努めています。</p>
健康生きがい部長	<p>ありがとうございます。この件に関して、ご意見等ありましたら挙手をお願いできればと存じますがいかがでしょうか。特に、挙がっていないようです。</p> <p>(次第の4 連絡事項なし)</p>
健康生きがい部長	<p>それでは<b>次第の5、「資料の補足説明」</b>について事務局からお願いします。</p>
健康推進課長	<p>資料6（2ページ）をご覧ください。「内視鏡検査、喉頭がん検診、成人歯科検診では、検査をする側される側双方に感染リスクがあるが、どのような感染対策をしているのか」というご質問を藤垣委員からいただいています。区では各検診を板橋区医師会、板橋区歯科医師会に委託していますので、それぞれの会長からご説明をお願いします。</p>
齋藤委員	<p>内視鏡検査、喉頭がん検診とも発熱や症状がないかどうかの確認をしています。胃内視鏡検診に関しては、施設にもよりますが、PCR検査または抗原検査等で感染のリスクがないかどうかを確認しながら実施しています。喉頭がん検診に関しては、検診前にPCR検査を行うのは難しいと思うので、各先生方が感染リスクの有無を十分に判断してから検診を行っています。</p>
金子委員	<p>成人歯科検診は、区民が診療所に検診予約する際に、来院日までの体調管理として、毎日の検温とともに体調の不良がないかどうかをチェックしてもらい、異常がなければ、来院いただいています。待合室では、予約による三密の回避、空気清浄機の使用及び十分な換気等によって感染予防対策をしています。来院されてからは、手指消毒、マスク着用にて問診票の記入や体温測定を実施。発熱や風邪症状、直近の味覚・嗅覚障害がなければ、検診を開始します。医療機関として、スタンダードプリコーション（標準予防策）にのっとり、常時マスクを着用、フェイスシールドもしくはゴーグル、帽子、ゴム手袋着用にて検診を行います。歯</p>

	<p>科検診に際しては、飛沫が飛散するようなシリンジ等の使用はせず、視診による検診のみです。被験者及び医療従事者双方の最大限の感染予防対策のもとに検診を実施しています。また、会員には以上のような取り組みを周知徹底しているので、安心して歯科検診を受診していただきたく思います。</p>
健康生きがい部長	<p>ありがとうございます。議事の説明等は以上になります。全体を通してご質問ご意見等ありますか。</p>
齋藤委員	<p>去年のこの新型コロナウイルス感染症が始まったところから考えると、最初はPCR検査そのものがすぐにできる状況ではありませんでした。医師会として地域連携に注目して体制を作り、今は、それぞれの診療所等でも抗原検査やPCR検査ができるようになってきました。ただこの感染症は、例えば検査で陰性だったとしても、そのあとまた陽性になる方もいて、完全な見極めが難しいです。インフルエンザは、学校を中心に子ども達からの感染が多いですが、コロナは、幸い子ども達の感染は少ないです。20代、30代の方たちが無症状で広げてしまうという状況が非常に厄介な話にしており、クラスターの発生が非常に問題だと思います。</p> <p>それぞれの年代では、子ども達は、今年度は林間学校や運動会などの行事が全部中止になり、思い出づくりができなかったということでした。来年度は、感染対策に気をつけながらやっていくべきと考えます。また、クラブ活動は、接触の多いものは感染を起こす場合もあるので、どう実施していくか見直しておく必要があります。子育て世代の大人については、最初は保育園も休みになったりして子育てに難渋したということもありました。我々の行っている子育て支援事業は、密が避けられないため実施できませんでしたが、今後は、WEBで実施など考えていかなければと思っています。そして、高齢者は、許会長がおっしゃったように、フレイルや認知症の進行が非常に心配なところです。町会活動等や祭りも中止という状況で、集まれる機会がほぼなくなってしまっています。高齢者がWEBで何かを見るのは難しいことを考えると、少人数でもいいから集まれるイベントを開催していくことを考えなくてはなりません。そういう意味で、今後のワクチン接種については、なるべく板橋区の広い範囲で皆さんが簡単にアクセスして接種できる体制を作っていくべきですが、ワクチン接種で大事なものは、安全性と確実性です。マスコミが、違う自治体ではこんなに進んでいる、こっこの自治体ではまだまだ、というような話をしてくると思いますが、惑わされず安全性と確実性をしっかりと保ちながら接種を進めていきたいと考えます。</p>

藤垣委員	<p>今、齋藤先生が言われたように、PCR陰性でも後に陽性になることが時々あります。私どもの病院では、入院患者全員にPCR検査をしています。既往歴などでCTを撮って、その影が、コロナじゃなくても疑わしいという判断の場合には、コロナ疑い病棟に入院していただいています。後のPCR検査で陰性または肺の影の状況で違うということになれば、一般病棟に移ります。差別に見えるかもしれないがご了解いただきたく思います。それから、私は、腎臓内科外来で高血圧や慢性腎臓病を診ていますが、コロナを言い訳にして体を動かさない患者さんも多々見受けられます。集まらなくても、高齢者や中高年が個々で健康づくりができるようになり、この会議の趣旨である健康づくりが達成できればと日々感じています。</p>
健康生きがい部長	<p>ありがとうございました。議事はすべて終了となります。</p>
許会長	<p>本日は本当に重要な討論、現場からの報告をしていただきました。これを参考に、今後、板橋区の健康づくりの推進を進めるべきだということを感じています。コロナ禍では、高齢化している社会にとって認知症、フレイルの問題は重要です。その意味で板橋区老人クラブ連合会の皆さんの活動は、極めて重要かつ有効な手段ではないでしょうか。また、コロナ第3波のさなか、コロナ重点病院になった豊島病院は大変だと思いますが、私どもも協力するのでぜひ頑張ってください。</p> <p>高齢者の中には、コロナが陰性になってもフレイルが進みADLが落ちているために、自宅に帰れない人がたくさん増え、施設への入所も非常に困難でした。板橋区では、区と医師会と連携医療機関が協力して、病床確保を推進していて非常にありがたいですし続けてほしい。今後ともこの板橋区健康づくり推進協議会の委員の皆様と協力しながら、まずは、このコロナ流行を克服して収束させましょう。そのためにはワクチンは非常に大事です。板橋区的全医療機関が協力して、板橋区のすべての人に、ワクチンが行き渡るように協力していきたいと思えます。</p> <p>また、このコロナだけではなく、高齢化していく板橋区の中でADLを保ち、高齢者、健康を害された方、子どもたちの健康づくり、これらすべてが重要です。この協議会において、ますます皆さん方の力を発揮していただき、活発化するようにお願いしたいと思います。</p> <p>それでは本日の板橋区健康づくり推進協議会を終了いたします。お忙しいところ貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p>
健康推進課長	<p>本日はありがとうございました。</p>